静岡 きらり人財

現代風「げた」販売に奔走

好み把握、新たなもの作る

昨年6月、げた製造販売の水鳥工業（静岡市）専務のジョナタン・バーナベさん（46）は大阪ミナミのタコ焼き屋にいた。百貨店でげたを販売した帰りにビールを飲んでいると、見知らぬ男たちが話しかけてきた。

ビジネスマンにはほど遠い風貌に「怖くて身構えた」が、片言の日本語を返すとすぐに打ち解けた。パンフレットを渡すと「ワンダフル」。彼らは美容師で、1足1万円以上するげたを家族のために注文してくれた。

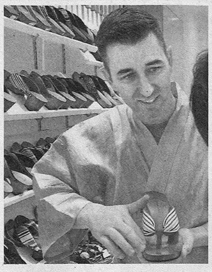
カナダ・ケベック州出身のジョナタンさんは大学で電気工学を学び、卒業後は米国のレーザー機器メーカーでエンジニアとして働いていた。

2008年に取引先の日本企業を訪れるために初来日。成田空港に着いたとき「自分の家に帰ってきたような気がした」。他の国を旅行した時は異なる文化に疲れていたのに、不思議とリラックスできた。「列車が時刻表通りに到着する正確さは、エンジニアとして好ましかった」と笑う。

水鳥工業に入るきっかけは15年に現社長の水鳥友紀子さんと結婚したことだ。友紀子さんが働きながら英語を学ぶため、インターネットを通じ教えてくれる外国人を探す中で偶然知り合った。

友紀子さんは家業を継ぐ決意を固めており、結婚を機にジョナタンさんは静岡に移住。高収入のエンジニアの仕事をやめることに「恐怖心もあった」が、伝統工芸を活性化するために「エンジニアとしての経験を生かせるのでは」と考えた。

18年に社員となったジョナタンさんの目には、職人が大半の製造工程を一人で担うのは非効率に映った。作業を分担することで効率が上がると提案したが、長年続けてきた工程を変えることは容易でなかった。



水鳥工業専務
ジョナタン・バーナベさん

そこで、友紀子さんはジョナタンさんに販売を担当してもらうことにした。昨年は国内各地の百貨店で開かれた催事で顧客の声に耳を傾けた。

同社のげたは履き心地をよくするため、板が足裏の形にあわせて加工してあり、鼻緒には柔らかいクッション材が入っている。行く先々でモダンなげたを売る外国人は注目され、「多くの新たなファンを獲得してくれた」（友紀子さん）。

店頭で多くのことに気づいた。顧客の大半を占める女性にとって、げたはファッションアイテムで高くても買ってくれるが、男性は値段に敏感で値ごろ感のある製品の方が好まれると感じた。

男性が好みそうなシンプルなデザインで女性向けより価格を抑えたげたを企画し、今夏までに静岡市内の店舗で試験的に販売する。エンジニアとしてのこだわりが、静岡伝統のもの作りに新たな風を呼び込み始めた。

（静岡支局長　原田洋）

ひとこと　「来日後の趣味はハイキング。週末も仕事や3歳の長男の世話でなかなか行けない」

副会長に野島氏

スルガ銀、外部人材で再建

スルガ銀行は10日、家電量販大手ノジマの野島広司社長を副会長に迎える人事を発表した。佐川急便の親会社SGホールディングスから転じ、2019年から副社長として経営再建に携わる嵯峨行介氏は社長に昇格する。

シェアハウス関連の不動産融資などで不正の横行を許した企業体質の改善を、社外から受け入れた人材が主導する。

6月26日に開く株主総会後の取締役会で正式に決定する。外部からは新たにソニーライフ・エイゴン生命保険の加藤広亮社長を副社長に、住友銀行（現三井住友銀行）出身で、金融や不動産に精通する峯村悠吾氏を取締役に迎える。

スルガ銀行
適切融資の横
し、金融庁か
を含む業務改
けた。19年5
や新生銀行と
発表。

同年10月に
有の株をノジ
得して筆頭株
創業家を完了

リニア静岡工区の有識者会

県、国に委員候補推

静岡県は10日、リニア中央新幹線の静岡工区を巡る国の有識者会議について、委員の候補案を発表した。3月の公募に応じた12人から、大阪経済大学の稲場紀久雄名誉教授（78）と、東京大学大学院の蔵治光一郎教授（54）の2人を選び、国土交通省に推薦した。

有識者会議は工事による大井川の流量減少問題が焦点になる。県は2人を推薦した理由について「水循環の見識が高く、中立公正な立場で議論できる」（くらし・環境部）と説明した。

稲場氏は環境科学などが専門で、
日本下水文化
表も務める。
林流域管理学
している。

初会合は4
く予定だ。新
イルスの感染
え、テレビ会
の活用も検討

☎ 静岡支局 054-253-7191
浜松支局 053-452-8593

静岡